

第1回 YNU 台風科学研究センター (TRC) セミナーのご案内

告知内容：

<TRC セミナー設置のご案内>

この度、横浜国立大学台風科学研究センター（TRC）では、日本の台風研究の底上げと活性化を目的とし、台風を軸に多様な研究について話題提供いただき、聴講者と自由闊達に議論する専門志向のセミナー「TRC セミナー」を定期開催することといたしました。

第1回は横浜国立大学の筆保教授から話題提供していただく予定です。Zoomによるオンライン形式、もしくは対面開催とのハイブリッド形式にて開催を計画しており、当面は隔月で開催いたします。

研究段階にある内容の講演や、情報セキュリティの向上、情報拡散の範囲限定のために、だれでも参加できるオープンなセミナーではなく、参加者は登録された方に限定させていただきます。原則、研究者や気象庁関係者はどなたでも参加していただけます。学生の方は指導教員やご指導を受けている先生について情報を頂き、なにかあればセミナー運営委員から指導教員に連絡が取れる方、と限定させていただきます。ご了承ください。

セミナーに参加するには、初回のみ登録が必要です。一度登録されれば、オンラインミーティング情報等の招待状が届きます。次回以降の参加申込は必要ありません。

下記のフォームから登録をお願いいたします。

https://docs.google.com/forms/d/1r1JoeNZdkp5nqTHQAdJoRycmiOd4MYBXgv-QX4NjUxw/viewform?edit_requested=true

皆様のご参加をお待ちしております。

<第1回 セミナー内容>

日時：2022年7月1日（金）16:30 - 18:00 JST

講演者：筆保 弘徳 氏（横浜国立大学 台風科学技術研究センター）

タイトル：北西太平洋における台風発生環境場の分類

場所：オンライン開催（Zoom）

要旨：

近年、台風発生プロセスの理解は飛躍的に進んだ。積乱雲の集団（クラウドクラスター）やそれに伴う渦が、それよりも大きなスケールにまで組織化して、自立的発達する発達メカニズムを持つ台風となる。しかし、現実の亜熱帯域の雲活動を調べると、クラウドクラスターが発生すれば常に台風が発生しているかといえば、そうではない。どのような環境場がどのくらいの期間で継続すれば、メソスケールプロセスが働き続けて台風形成に至るのか、逆にメソスケールプロセスが抑制・阻害するのか（Zehr 1992）、台風発生を予報するうえで最も重要なこの点がまだ十分に解明されていない。しかし、北西太平洋における台風発生環境場はいくつかのパターンに分類できることがわかっている（例えば気象庁 1990）。Yoshida and Ishikawa (2013) はRitchie and Holland(1999)が提案する 5 パターンに対して指標を設けて、台風発生時の台風発生環境場パターンを定量的に見積もる「台風発生環境場検出法（TGS）」を開発した。講演者のこれまでの研究では、TGSを利用・拡張して、台風発生時やそれに限らず全ての領域・時間で台風発生環境場パターンを定量的に見積り、パターンごとの台風の特徴や、発生が阻害される時の特徴、温暖化とパターン変化などを統計的に調べてきた。講演では以上の内容と、今後の台風発生研究の課題を紹介する。

<YNU TRC セミナー情報 Web サイト>

<https://trc.ynu.ac.jp/kouza/>